

由井 浩

## メタセコイア

西東京市のいこいの森公園からは隣接している東大田無演習林のメタセコイアの巨木を見渡すことができる。2005年にこの公園ができて以来、ここに来てメタセコイアが群生するこの光景を見るのを楽しみにしている。

ある時にメタセコイアについて、名前の意味などを知ろうと思い、調べたところ次のような物語があったことを知った。

京都帝国大学の三木茂博士は、岐阜県、和歌山県の古い地層から発掘した植物化石がセコイアという植物によく似てはいるが葉の形などがセコイアとは異なることから、1941年にこの植物はセコイアとは別種の植物であると結論づけてメタセコイア（第2のセコイアの意）と命名した。この植物は化石としか見出せなかったもので、既に絶滅したものと三木博士は考えた。

この発見の4年後の1945年に中国四川省で絶滅を免れて生き延びていたメタセコイアが発見され、メタセコイアは生きていた化石として一躍有名になった。中国からメタセコイアの種子が日本の皇室に寄贈され、その後種子や挿し木で日本中にメタセコイアが広まった。70年経った現在は日本各地でメタセコイアの巨木が群生する光景を見ることができるようになった。



東大田無演習林のメタセコイア  
(2016年6月上旬撮影)



メタセコイアは落葉樹なので、四季によって大きく姿を変える。

冬に葉が落ち、新しい葉がまだ生えていない4月初旬には、咲き誇る桜を前景とする左の写真のような光景を新宿御苑で見ることができる。

初夏から夏の間は、上の写真のような緑の巨大な屏風を遠望できる。

←春のメタセコイア（新宿御苑）  
(2013年4月初旬撮影)

秋の紅葉はどこで見るのがよいかを調べたところ、東京・葛飾区にある水元公園のメタセコイアの森の紅葉が見応えがあるということがわかったので、昨年の12月初旬紅葉の見頃の時にメタセコイアの森を見に行った。

小合溜（こあいだめ）という名の遊水池の水辺にある広大な水元公園の東北部に1800本ものメタセコイアが群生するこの森をいろいろな場所から撮影しようと思い、最初是对岸にある埼玉県みさと公園に行き、その一番北部の水際から撮影した。青い空と白い雲の下でレンガ色に染まるメタセコイアの森にしばし見とれながら、何回もシャッターを切った。



みさと公園からのメタセコイアの森の眺め

次にみさと公園の中を北から南に縦断して歩き、最南端で小合溜に架かる橋を渡って水元公園に入った。水元公園の南部からメタセコイアの森を見渡すことができる中央部まで歩いて、メタセコイアの森を遠望しながら写真を撮った。ここからはワイドビュー・メタセコイア紅葉を撮影することができた。



↑ ワイドビュー・メタセコイア紅葉



紅葉の撮影が一区切りついたところに小合溜でユリカモメの群れが飛び立って上空を旋回し始めた。鳥は動きが激しいために写真に収めるのがとても難しいが、十数回シャッターを切って何とか1枚メタセコイアの紅葉を背景にユリカモメが飛翔する姿を捉えることができた。トリ年の平成29年に向けて、明るい展望が期待できそうな気がした。

←ユリカモメの飛翔